

修士論文（要旨）
2018年1月

依頼への「断り」ストラテジーの分析
- 中国人日本語上級学習者の語用的な問題に着目して -

指導 宮副ウォン 裕子 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
215J3904
朱奕君

Master's Thesis(Abstract)
January 2018

An Analysis of Request Refusal Strategies:
Focusing on the Language Problems of Advanced Chinese Learners of Japanese

ZHU YIJUN

215J3904

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Yuko Miyazoe-Wong

目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 専門用語定義 | 1 |
| 第1章 はじめに | 3 |
| 1.1 研究背景 | 3 |
| 1.2 研究目的 | 4 |
| 1.3 本論文の構成 | 5 |
| 第2章 研究の枠組みおよび断りに関する先行研究 | 6 |
| 2.1 コミュニケーション能力、語用論的能力、中間言語語用論 | 6 |
| 2.2 ポライトネス理論 | 7 |
| 2.3 中間言語語用論研究の方法論 | 8 |
| 2.4 発話行為-「依頼」と「依頼への断り」 | 9 |
| 2.5 中国の日本語教科書における「断り」 | 10 |
| 2.6 語用論的能力の習得 | 11 |
| 第3章 予備調査の概要と結果分析 | 12 |
| 3.1 調査概要 | 12 |
| 3.2 調査対象者 | 12 |
| 3.3 研究の方法 | 12 |
| 3.3.1 調査方法 | 12 |
| 3.3.2 データの分析方法 | 13 |
| 3.4 分析 | 13 |
| 3.5 考察 | 16 |
| 3.5.1 問題点の考察 | 16 |
| 3.5.2 本調査への方向付け | 17 |
| 第4章 本調査 | 18 |
| 4.1 調査概要 | 18 |
| 4.1.1 本調査における「断り」行動の定義 | 18 |
| 4.1.2 「お詫び・謝罪型」表現の認定 | 18 |
| 4.1.3 概要 | 19 |
| 4.1.4 データ収集法について | 19 |
| 4.2 調査対象者 | 20 |
| 4.3 データ分析 | 21 |
| 4.3.1 ロールプレイ(中国人学習者同士)のデータ分析 | 21 |
| 4.3.2 ロールプレイ(日本語協力者と中国人学習者)のデータ分析 | 21 |
| 4.3.3 フォローアップ・インタビューのデータ分析 | 27 |
| 4.4 分析 | 29 |
| 4.4.1 最初に用いられる「断りストラテジー」 | 29 |
| 第5章 総合的考察 | 33 |
| 5.1 相違点と類似点 (RQ1) | 33 |
| 5.1.1 相違点 | 33 |
| 5.1.2 類似点 | 34 |

| | |
|-----------------------------------|----|
| 5.2 語用的な問題 (RQ2) | 34 |
| 5.2.1 謝罪ストラテジーについて | 34 |
| 5.2.2 理由ストラテジーや代案ストラテジーについて | 34 |
| 5.2.3 緩和表現 | 35 |
| 5.2.4 負担 | 35 |
| 第6章 今後の課題 | 36 |
| 第7章 教育現場への提案 | 37 |
| 7.1 教室内の指導 | 37 |
| 7.2 映像リソースを使用する学習活動 | 38 |

参考文献

巻末資料

日本語を第二言語として学習する学習者にとって、学びたい理由は人によって違うが、主な動機の一つは「日本語でコミュニケーションできるようになりたい」という願望だと思う。では、その願望を叶えるためには、学習者たちは何を勉強した方がいいのだろうか。中国人学習者の多くは、教科書を利用し、単語と文法から学び始めるが、はたしてそれだけでうまくコミュニケーションができるのだろうか。私は来日直後、日本語で会話する際に、文法的には誤りが無いとしても、思わぬ誤解や摩擦を生じさせたことがよくある。発話行為上の誤りは、発音、文法上の誤りと異なって、誤解を引き起こし、人間関係を悪化させる可能性が十分ある。

本研究はこのような結果を引き起こす重要な問題だと考え、本研究では誤解が生じやすい「断り」、特に対話相手のフェイスを脅かす可能性が高い発話行為、「依頼への断り」に関する研究を行い、日本語と中国語における「依頼への断り」に関する様々な側面を取り上げ、相互作用を含め、談話レベルで分析する。本研究のリサーチクエスションは以下の通りです。(以下日本人母語話者を JJ、中国人学習者を CC とする)

RQ1: 「依頼への断り」における、CC と JJ の返答上の類似点と相違点は何か。

RQ2: 語用論的観点から見た CC の「依頼への断り」の言語表現や断り方の特徴は何か。

予備調査では、日本語で依頼場面での JJ と CC の「断りストラテジー」使用傾向の相違点と類似点を解明しつつ、CC の断りストラテジーに着目し、DCT とフォローアップ・インタビューの二つの方法を用いて分析した。結果を分析する過程で、心理的負担が重すぎる場面設定と、データ収集方法の問題点が明らかになった。本調査では社会的距離の存在しない友人関係において調査を行うこととした。データ収集方法を以下のように設定した。

1) CC の中国語でやりとりする場面を設定し、ロールプレイを行ってもらおう。先行研究の論文では、CC と JJ のペアのロールプレイのみが取り上げられており、全体像が把握できなかったため、本研究では、計画を変更し、追加データを収集する。

2) CC と JJ が日本語で交互にやり取りをする場面を設定し、ロールプレイをしてもらい、「断りストラテジー」を分析する。

結果としては

相違点と類似点 (RQ1):

1) JJ は「直接的断りストラテジー」を使う人は一人もいなかった。CC は最初に「直接的断りストラテジー」を使用する傾向がある。

2) JJ は CC より理由説明を多く使用し、代案を多数使用したのに対して、CC はほとんど使用しない。

3) ほとんどの JJ が謝罪表現を使うのに対して、CC はごく僅かしか謝罪を行っていない。

4) 最も類似しているのは理由ストラテジーを使用する点といえる。

語用論的な問題 (RQ2):

1) 聞き手のポジティブ・フェイスを満足させるストラテジーであるゆえ、JJ が CC よりも謝罪ストラテジーを多く使っていたと考えられる。フォローアップ・インタビューでは、「よりいい人間関係を保つため、「謝罪」を言わないと相手に失礼だ」という JJ からの発言も見られた。

2) 会話例で、両方とも理由ストラテジーを用いていた。ポライトネス理論の視点からすると、理由説明しないと、人間関係がうまく維持できないというマイナスの印象を与える

恐れがあると考えられる。

3) 会話において、CC より JJ の方が緩和表現の多用も見られた。

4) 「無理だよ」、「無理だね」は CC には同じ意味と認識される可能性があるが、会話の流れを考慮しなかったら、相手に不快な思いをさせてしまう恐れもある。

本研究は質的に分析したに過ぎず、また場面も限られているため、この結果を一般化することはできない。今後はさらに場面や依頼関係にバリエーションを加えて、調査分析していく必要があると思われる。

参考文献

- 生駒知子・志村明彦 (1993) 「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー：「断り」という発話行為について」『日本語教育』79号、pp. 41-51
- 伊藤恵美子 (2004) 「データ収集における方法論の検討—言語教育に寄与する発話データを集めるには—」『ことばの科学』名古屋大学言語文化研究会、pp. 5-22
- 伊藤恵美子 (2006) 「日本人は断り表現において丁寧さをどう判断しているか—長さとお適切性からの分析—」『異文化コミュニケーション研究』18、pp. 145-160
- 宇佐美まゆみ (2001) 「談話のポライトネス—ポライトネスの談話理論構想—」9-58. 『第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告書—談話のポライトネス—』、国立国語研究所編、凡人社
- 岡崎眸 (1995) 「日本語学習者における語用論上の転移再考」『東京外国語大学論集』第50号
- 王立熊雄 (2013) 「中国の日本語教科書における「断り」について」桜美林大学大学院言語教育研究科修士論文
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1993) 『『依頼表現』方略の分析と記述—待遇表現教育への応用に向けて—』『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』No. 5 pp. 52-69
- 金庚芬 (2012) 「日本語と韓国語の「ほめ」に関する対照研究」『ひつじ研究叢書』
- ザトラウスキー・ポリー (1993) 「日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察」、『国語学』第182集
- 清水崇文 (2009) 『中間言語語用論概論—第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育—』スリーエーネットワーク
- 清水崇文 (2013) 『みがけ！コミュニケーションスキル—中上級学習者のためのプラッシュアップ日本語会話—』スリーエーネットワーク
- 清水美帆 (2013) 「中国 A 大学における映像メディアを用いた日本語『視聴説』授業の研究—映画をリソースとした対話重視の授業実践から—」桜美林大学大学院言語教育研究科修士論文
- 熊谷智子 (1993) 「研究対象としての謝罪—いくつかの切り口について—」『日本語学』12(12)、pp. 4-12
- グエンイエンティハイ (2012) 「依頼に対する断り談話—日本語母語話者とベトナム語母語話者との比較」東京外国語大学大学院紀要論文、pp. 181-192
- 小池真理 (2000) 「日本語母語話者が失礼と感じるのは学習者のどんな発話か—「依頼」の場面における母語話者の発話と比較して—」『北海道大学留学生センター紀要』第4号、pp. 58-79
- 徐孟鈴 (2007) 「依頼会話【先行部】の考察—日本語母語場面、台湾人母語場面、日台接触場面のロールプレイデータを比較して」『言葉と文化』8、pp. 219-237、名古屋大学
- 施信余 (2007) 『「待遇コミュニケーション」における「依頼」に対する「断り」の研究—日台の言語行動の比較を中心に』早稲田大学大学院日本語教育研究科博士論文
- 杜盛楠 (2015) 「中国の大学の日本語専攻の「視聴説」授業の実態調査—映像リソース

- を使用する学習活動に対する学習者の評価から－」桜美林大学大学院言語教育研究科修士論文
- 中道真木男・土井真美 (1995) 「日本語教育における依頼の扱い」『日本語学』14巻10号、明治書院、pp. 84-93
- 馬珊 (2015) 「映像作品を用いた日本語授業の研究 - メディアリテラシーを取り入れた実践授業からの考察 -」桜美林大学大学院言語教育研究科修士論文
- 藤原智栄美 (2005) 「社会文化の接面に立つ学習者を理解する」『文化と歴史の中の学習と学習者』西口光一 (編) 凡人社 pp. 144-163
- 藤森弘子 (1995) 「日本語学習者にみられる『弁明』意味公式の形式と使用—中国人・韓国人学習者の場合—」『日本語教育』87、pp. 79-90
- 三宅和子 (2014) 「ロールプレイにおける学習者のモニタリング—モニタリングの実態から教育を考える—」『日本文学文化』第13号、pp. 1-16、東洋大学
- 三宅知子・フォード丹羽順子 (2014) 「接触場面における日本語母語話者の配慮—ロールプレイにおけるモニタリングの分析を通して—」『ヨーロッパ日本語教育』18号、pp. 247-248
- 蒙 榘 (2008) 「日中断りにおけるポライトネス・ストラテジーの考察—日本人会社員と中国人会社員の比較を通して—」『国際開発研究フォーラム』36、pp. 241-254
- 吉田好美 (2011) 「勧誘場面における断りのコミュニケーションに見られる代案について—日本人女子学生とインドネシア人女子学生の比較—」『群馬大学国際教育・研究センター論集』第10号、pp. 17-32
- 吉田好美 (2015) 「勧誘に対する断りの研究—日本語母語話者とマナド語母語話者の比較—お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
- 頼美麗 (2004) 『依頼における「お詫び・謝罪型」と「感謝型」の表現に関する考察—日本語母語話者と台湾人日本語学習者を中心に』早稲田大学大学院日本語教育研究科修士論文
- Bergman, M. L., & Kasper, G. (1993). Perception and performance in native and nonnative apologizing. In G. Kasper & S. Blum-Kulka (Eds.), *Interlanguage pragmatics* (pp. 82-107). New York: Oxford University Press.
- Brown, P., & Levinson, S. C. (1987). *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Goffman, E. (1967). *Interaction ritual: Essays on face-to-face behavior*. New York: Pantheon Books.
- Hymes, D. (1972). Models of the interaction of language and social life. In J. Gumperz & D. Hymes (Eds.), *Directions in sociolinguistics: The ethnography of communication* (pp. 35-71). New York: Holt, Rhinehart & Winston.
- Kasper, G. & Schmidt, R. (1996) "Developmental Issues in Interlanguage Pragmatics." *Studies in Second Language Acquisition* 18: 149-169.
- Kasper, G., and Rose, K. R. (1999). Pragmatics and SLA. *Annual Review of Applied*

Linguistics, 19, 81-104.

Mey, J. L. (1993). *Pragmatics: An introduction*. Oxford: Blackwell.

Selinker, L. (1972). Interlanguage. *IRAL*, 10(2), pp.209-231.

参考 URL

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/07/08080109.htm (2017年07月05日
アクセス)